

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園みなとみらい	種別：認可保育所
代表者氏名：中村こずえ	定員（利用人数）：78名
所在地：〒220-0012 横浜市西区みなとみらい4-7MMミッドスクエア3F	
TEL：045-350-9308	ホームページ： https://www.like-kd.co.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2008年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクキッズ株式会社	
職員数	常勤職員：16名 非常勤職員 9名
専門職員	（専門職の名称） 名 調理師 3名
	保育士 19名 看護師 1名
	栄養士 1名 事務員 1名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）
	保育室：6 ホール：1 室内プ ール：1 教材室：1 乳児トイレ：2 幼児トイレ：1 誰でもトイレ：1

③ 理念・基本方針

■保育理念■

「のびやかに育てだいちの芽」

■保育方針■

みとめ愛 みつめ愛 ひびき愛

信頼 安定 共感

あたたかいまなざしに見守られ みつめられ 心地よく安定した心

人を信じ尊重し 自分のも友だちのことも 好きといえる みとめあう心

ひびきあい 共感しあい 喜びと自信をもって たくましく生きていける心

④ 施設・事業所の特徴的な取組

・「地域とともに生きる～立地を生かした保育～」

商業施設の中に位置していることから、近隣のイベントへの参加や地域の施設との交流を積極的に行っている。

美術館の利用や体操教室の講師による運動遊び、インターナショナルスクールとの交流、祭りの参加

地域清掃の参加、買い物体験等々保育園内の職員だけでなく、幅広く地域の方々とかかわることで、様々な

職業を知ったり、たくさんの方々に見守られて成長していることを感じることができる。

また、体力増進を掲げ、観光地を生かした散歩コースを取り入れ、楽しみながら長距離散歩を行い、

特に年長児は、保育園最後の1年の思い出作りをしている。

・「室内プールの活用」

夏場は、天候関係なく発散活動として水遊びができる。他にも1年を通してダイナミックな絵の具遊びや
 藍染体験、ボートを作って浮かべて遊ぶ等の場として活用している。
 ・「ホールでの運動遊び」
 近隣の公園に遊具が少ないため、全身を使える体育用具を揃え、普段の保育で活用し、全身運動を促している

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2025年 5月 16日（契約日） ～ 2026年 1月 16日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2020年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

保育実践の振り返りに努め、改善や専門性の向上に取り組んでいる

日々の保育実践を振り返る機会を大切にし、職員が自ら気づきを共有し改善につなげている。少人数での振り返りを取り入れ、気づきや報告があればすぐに改善に向けて動く体制を整えている。職員同士が自発的に意見交換や検討を行う姿勢が育ち協同的に保育の質を高める流れが定着している。また、4月に個人目標を立て12月に振り返りと自己評価を行う流れとしている。目標に対する振り返りを行うことで、大切にしたいことを意識し向上心につなげることができている。日々の活動内容に対する評価は日誌、週案、月案、期の振り返りを行い、次年度につなげるように取り組んでいる。園の振り返りとして実施する自己評価では、それぞれの意見をまとめている。

障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備している

障害のある子どもが安心して生活できるよう加配児担当窓口を設け、特定の職員が寄り添いながらも全職員で臨機応変に対応している。加配児の情報は常に共有し、園全体で理解と支援を行う体制を整備しており、一人ひとりが安心して園生活を送れる環境作りに努めている。障害の特性を考慮した個別指導計画を作成し、クラスの指導計画と関連付け、共に保育活動が楽しめるようにしている。保護者との連携を大切に、寄り添いながら療育での様子などを聞きながら園生活がスムーズに行えるように協力体制作りに力を入れている。障害児保育についての外部の研修に参加し、園内で報告し、関わり方などの周知を図っている。

職員の状況把握に努め、ワークライフバランスに配慮した働きやすい職場づくりに取り組んでいる

法人にてハラスメント、ストレスマネジメント、その他の労働災害への対応として嘱託医や臨床心理士による相談窓口を設置し、また入寮制度など各種の福利厚生制度を設けて働きやすい職場づくりに努めている。園では職員の就業状況に配慮し、シフト調整や休暇取得の希望を尊重するとともに、一人の職員が何人もの園児を見るような業務の属人化を避けて、適切な人員配置を実施し負担の偏りを避けている。職員の家庭事情にも柔軟に対応し、相談しやすく働きやすい職場環境づくりを進めている。園長は職員との定期的な面談のほか、日頃から職員の状況を把握に努めている。可能な限り個別事情を聞き入れ、職員のワークライフバランスの取れた勤務体制を整えており、職員の安心や定着につながっていることがうかがえる。

今後期待される点

子どもの生活を充実させるために、家庭との連携のさらなる充実を課題としている

比較的経験の浅い若い保育士が多く、保護者との関係性は明るくフランクに築けている。一方、家庭の様子を踏まえた具体的なアドバイスや子育て支援には課題が残っている。今後は、保護者からの相談に的確に応じられるよう研修や振り返りを通じて職員の高めより緊密で実効性のある家庭連携を実現を目指している。年2回の懇談会、保育参観、保育参加などを実施し、保育活動を見てもらったりテーマや目標を伝え共有できるように取り組んでいるが、コミュニケーション力の向上を図り、それらの機会の充実を目指している。

さらなる環境への取り組みや園長の研修参加が期待される

園長は、園長就任時に法人園長研修を受講し、「保育ガイド」を中心とした園長の責務・法令遵守などを理解しており、福祉分野に限らず社会ルールや倫理を含めて理解して職員指導を行っている。また、園長および各職員は利害関係者と適正な関係を保持して業務を遂行している。環境に対しては「環境問題への取り組み」を明文化し掲示しており、その中で園における節電、節水、資源リサイクルなどの取り組みを保護者へも紹介している。また、「服のカ プロジェクト！」運動の一環で衣類などを寄付する活動に参加している。しかしながら、園長は就任後、日も浅く、自身の研修参加が十分に確保できていないことや環境への配慮に関する取り組みに対して課題としている。今後、園長は行政や民間が主催する各種セミナーや研修に参加して幅広い分野に亘り、積極的にかつ意識的に研鑽を積んでいく予定である。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審し、運営および日々の保育について、客観的な視点から振り返る機会となりました。これまで大切にしてきた子ども一人ひとりに寄り添う保育や、職員間で連携しながら進めてきた取り組みについて、一定の評価をいただくことができ、職員にとって今後の保育への励みとなりました。また、第三者の視点から評価を受けることで日頃の実践を改めて整理し、共有することの重要性を再認識する機会ともなりました。今回の評価結果を踏まえ、現状の良さを大切にしながら、今後も職員一人ひとりが共通理解を持って保育に取り組み、保育の質の維持および向上に努めてまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり